

胎児治療用内視鏡の共同開発を開始

医工連携による医療器具の開発

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（理事長 奥村 次徳）と東邦大学医学部（医学部長 高松 研）は、医工連携による医療器具の開発改良を目的に、共同研究「**一絨毛膜双胎における双胎間輸血症候群の低侵襲外科治療用胎児鏡の開発**」を開始しました。

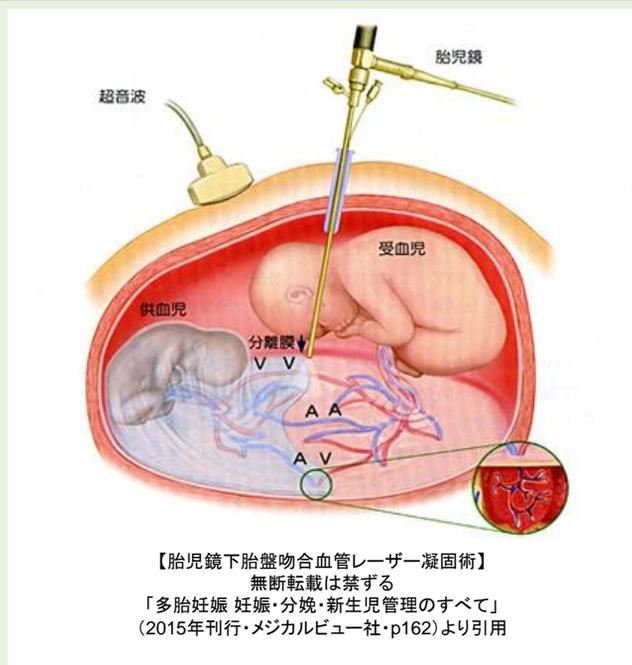
1 背景と目的

双子の胎児の胎盤が一つの場合（一絨毛膜性）、一方の胎児から送られた血液が“吻合血管”を通じて他方の胎児に送られることがあります（双胎間輸血症候群）。無治療で放置した場合、流産や早産に至る可能性が高くなります。

東邦大学医療センター大森病院産婦人科 中田 雅彦教授は、「胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術」により、子宮内に細い内視鏡（胎児鏡）を挿入し、レーザーを用いて吻合血管を焼灼・凝固する治療法に長年取り組んできました。一方で、現状の胎児鏡は、海外の既製器具を使用しており、本疾患用には充分適合していません。

そのため、術技の安定化や治療成績向上などの改良開発が課題となっています。

本研究では、胎児鏡の特性評価および改良を行い、当該治療に適した胎児鏡の開発を目的とします。さらに、改良した胎児鏡の中小企業による国内製品化を目指します。



2 今後の予定

今年度：東京都立産業技術研究センター 適切な材料選択と改良、改良品の設計・試作
東邦大学医学部 課題の抽出、胎児鏡および改良品の特性評価
来年度以降：改良品の製品化に向け、企業も含めた共同研究を実施予定

※東京都立産業技術研究センターは、企業や業界団体、大学などが協力し、それぞれが持つ技術とノウハウを融合し、技術開発や製品化に向けた研究を共同で推進しています。

本研究は平成29年度第1回共同研究テーマとして採択されました。

【お問い合わせ】 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

地域技術支援部城南支所 田中 実 TEL 03-3733-6281 FAX 03-3733-6235
経営企画部広報室 木村 千明 TEL 03-5530-2521 FAX 03-5530-2536

<http://www.iri-tokyo.jp/>

配布担当 東京都立産業技術研究センター経営企画部広報室 TEL 03-5530-2521